

序 文

名古屋大学工学研究科・工学部は21世紀に望まれる持続的な社会を構築するための科学と技術の創成をめざした教育と研究を進めておりますが、工学研究科・工学部技術部は平成14年度から発足した新しい組織のもとでその支援の役割を果たしてまいりました。平成16年度には大学の法人化に伴い、全学技術センターに統合され、部局系技術支援室工学技術系として新たな一步を踏み出しました。

わが国の大学における技術支援組織は、教員あるいは学生数に対する比率という点では、欧米諸国の状況と比較してきわめて貧弱であるといわざるを得ません。また、大学における教育・研究内容がますます高度化し、情報ネットワークなどの新しい業務が専門の分野を問わず必要とされるようにもなりました。工学研究科・工学部技術部はこのような状況に的確に対応するため、教員組織との強い連携のもとで、日々研鑽を繰り返して参りました。この連携と研鑽こそが本技術部の活力を支える基盤となっております。工学研究科・工学部技術部は、各専門分野における研究・教育支援はもとより、防災・安全・省エネルギー・情報ネットワーク等の多岐にわたる全学的な諸課題について、従来からその対応に中心的な役割を果たしてまいりました。本技術部技術報告書「技報」は、技術職員の方々が、教育研究支援業務を通して会得した成果と、技術力を高めるために企画・実施した研修の成果を取り纏めたものです。技術職員の活動と前向きな姿をご理解いただければと存じます。

工学系技術部は、全学技術センターの一員として、文字通り全学の研究・教育支援を担っております。法人化によって社会との連携が一層重要視される中、わが国の基幹研究を担う大学院大学として、また、高等教育の国際拠点として名古屋大学の果たすべき役割と責務は従来以上に重いものとなります。技術部は名古屋大学の発展のために今後もたゆまぬ研鑽をすすめる所存でおります。皆様方には、技術部の活動に忌憚のないご意見をいただき、今後もその活動に一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月

工学研究科長・技術部長
澤木 宣彦